

研究領域名	和解学の創成-正義ある和解を求めて
領域代表者	浅野 豊美（早稲田大学・政治経済学術院・教授）
研究期間	平成29年度～平成33年度
研究領域の概要	<p>本領域は、紛争解決学と呼ばれる学問が構築主義的国際関係論を母体として欧米で発展してきたことを踏まえつつ、それを東アジアの固有の歴史的文脈と結び合わせ、規範と実証とが調和したネーション間の「和解学」として高めていこうとするものである。和解学の最終目標は、ネーションが想像されるのと同様に、各国民が各々のやり方で「和解を想像」し得るような学知の構築である。こうした規範的問題意識のもとに、5つの計画研究班によって実証的分析を遂行し、政府・知識人・大衆・市民という多様なアクターが、国内において、そして国境を越えて、重層的に織りなす関係と共有される価値・文化に焦点を当て、歴史問題の起源と展開の構造を明らかにしつつ、ネーション相互の関係を想像するための知的インフラのあり方を提言し、最終的にはネーションを越えた東アジア地域の市民的意識の共有に向けた文化・教育政策協調の呼び水となろうとするものである。</p>
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、東アジア固有の歴史的な文脈の中での和解学の創生という社会的必要性の高い課題に取り組むものであり、これを学際的な新学術領域として確立・強化することの意義は大きい。また、国家間の捉え方と同様に、和解を「想像されるべきもの」として捉え、それを可能とする知的インフラ、前提条件などを構築する視点は、狭隘な実証主義を超えて、和解という観念の知的かつ実践的意義を見極めようとするものであり、その点でも新たな展開が期待される新しいアプローチである。研究目的の実践的な意義は明確であり、実績のある研究者が統一テーマで研究を進めることで、本領域の目的に応じた一定の成果を達成できるものと期待される。</p> <p>ただし、参加する研究者が政治学に偏っているため、国際法、法社会学、経済学、人類学、心理学など、関係する研究分野との連携を強化することによって新学術領域としての学際性・融合性を高めること、そして全体を総括するためのマネジメント体制を強化していくことが必要である。</p>